

個別補助事業

「主要地方道 大津能登川長浜線（上砥山・目川工区）」の再評価

●委員

P19 の交通量の分散について、整備前後で増減の数値が合わないのはなぜか。

P22 で草津市は基本構想に「にぎわい」、P23 で栗東市はマスタープランに「通過交通の流入抑制」と記載しているが、それぞれ狙いが異なるのか。

○事務局

国道 1 号につながる並行道路は上砥山上鉤線と石部草津線以外にも複数あり、それらの路線にも交通が分散しているためである。

草津市は賑わい創出のため、栗東市は旧東海道に交通量が流入することによる安全・安心面で問題があるため記載内容が異なると考えられる。

●委員

P15 の観光入込客数の伸びについて、栗東市はコロナの影響は受けなかったのか。

○事務局

草津市には人が密集する大型店舗等が多くあるため、コロナによる影響は大きいが、栗東市にはそういった施設が多くないため、影響は少なかったと考えられる。

●委員

P26 の費用便益分析結果の 34 億円は P10 の全体事業費と異なるのはなぜか。

残事業分に対しても費用便益分析を算出するのはなぜか。

○事務局

P26 は現在価値に換算した値であるため、P10 の全体事業費とは異なる。

残事業の費用便益分析結果が 1.0 を超えなかった場合には、事業の中止も含めて検討する必要があるため算出している。

●委員

R6 年度末の一部暫定供用は残事業分の費用便益分析に反映しているのか。
盛土材に使用する発生土について、品質・安全性などの試験データ等はあるか。能登半島地震での液状化現象の問題もあるので注意していただきたい。

○事務局

今回の費用便益分析には反映していない。

事前に土質試験を行い、盛土材として品質に問題ないことは確認済みである。

●委員

当初計画では必要な土量を現場内で全て確保できなかったのか。

○事務局

当初計画では、現場内で流用可能土は流用する計画であり、不足する分を購入する計画としていたが、別事業等（NEXCO）で良質な発生土を場内に受け入れることができたため変更している。